

「姉妹」

1955年 モノクロ 93分

制作

監督 家城巳代治 製作 立野三郎 原作 畔柳二美
脚本 新藤兼人 家城巳代治 撮影 木塚誠一 美術 山崎正夫
音楽 大木正夫

出演

野添ひとみ 中原ひとみ 内藤武敏 多々良 純 望月優子 殿山泰司
河野秋武 川崎弘子

解説

原作は毎日出版文化賞を受けた畔柳二美のデビュー作。姉妹の家族が暮らす山奥の発電所と叔母の家から高校に通う二人の成長を瑞々しく描く。監督の演出にはユーモアと細やかさがあふれている。

松竹の野添ひとみ、東映の中原ひとみ、それぞれの持ち味を生かして、初々しい。

物語

やさしいクリスチャンの姉圭子（野添ひとみ）と、まだ大人になりきらない勝気な妹俊子（中原ひとみ）は17才と14才。性格は正反対だが、山奥の発電所の家を離れ、松本の叔母の家の下宿して、高校に通っている。多感な二人が経験する青春。春休み、夏休みに帰る故郷の発電所は楽しくもあり、生活の厳しさも感じさせられる。大工の棟梁で遊び好きのおじさん、借金取りに居留守を使うお婆さんも好人物。叔母夫婦の愛に包まれ、姉妹はすくすくと育つ。やがて、圭子が嫁ぐ日を迎えるが――。